
特別国民体育大会開催に向けた基本目標

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」

Special National Sports Festival



令和3年5月

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会実行委員会

目次

特別国民体育大会開催に向けた基本目標について	1
○ 特別国民体育大会開催に至る経緯と今後の取組について	
第1章 基本目標(鹿児島が目指す国体)	2
「力みなぎる・かごしま」の多彩な魅力を全国に発信する国体	
第2章 基本目標を実現するための取組	
1 コロナ禍からの再生と飛躍を象徴する国体	3
(1) 後催県への感謝と交流の推進	
(2) 特別国体としての新たな価値の創出	
(3) 国体から国民スポーツ大会へつなぐ取組	
(4) 国体開催による経済浮揚の取組	
2 県民が夢と希望を持ち心に残る国体	4
(1) 県民総参加の取組	
(2) ボランティアの育成	
(3) 開催気運の再醸成	
(4) 脱炭素化及び環境への配慮	
3 スポーツの普及・振興を図る国体	5
(1) 選手強化等の推進	
(2) 全県を挙げた協力体制	
(3) 国体を契機とした継続的なスポーツ振興	
(4) 障害者スポーツの普及と環境整備	
4 簡素・効率化を図る国体	6
(1) 既存施設等の有効活用	
(2) 幅広い募金活動の展開や民間企業とのタイアップ	
(3) ボランティアの協力	
(4) 全国障害者スポーツ大会の開催	
5 鹿児島魅力を発信する国体	7
(1) 総合開・閉会式の創意工夫	
(2) まごころのこもったおもてなしや交流の促進	
(3) 広報活動の推進	
(4) 観光関連団体等との連携	

特別国民体育大会開催に向けた基本目標について

○ 特別国民体育大会開催に至る経緯と今後の取組について

かごしま国体とかごしま大会（以下、「両大会」という。）については、令和2年6月19日に日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会、スポーツ庁及び本県による4者協議を行い、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年秋には開催せず、具体的な開催時期については、引き続き、調整・検討を継続することを決定しました。

また、令和2年6月22日に開催した4者協議において、できるだけ早期の開催を県民が待ち望んでいることや、後催県の準備状況、新型コロナウイルスの収束時期などを総合的に勘案し、3年後の令和5年の開催に向けて調整する方針を確認しました。

その後、この方針に基づき、佐賀県や滋賀県など後催県との協議等を経て、かごしま国体については、令和2年10月8日に開催された日本スポーツ協会臨時理事会において、令和5年に「特別国民体育大会」として開催することが決定され、また、かごしま大会についても、同年に「特別全国障害者スポーツ大会」として、開催することとなりました。

両大会の開催決定に当たっては、日本スポーツ協会や日本障がい者スポーツ協会、スポーツ庁、また佐賀県や滋賀県など後催県の皆様方に、多大な御理解・御協力をいただきました。

令和5年の両大会については、県民や市町村、競技団体等とも連携の上、スポーツをはじめとする後催県との人的交流の展開等により、開催気運の再醸成を図りながら、県民はもとより、全国の皆様にとっても素晴らしい、思い出に残る希望に満ちた大会となるよう着実に取組を進め、「コロナ禍からの再生と飛躍」を象徴するスポーツ大会を目指します。

このような経緯等を踏まえ、「特別国民体育大会」の開催準備及び大会運営について、第75回国民体育大会開催基本構想（平成27年5月決定）における基本目標を実現するための取組の一部を見直します。

第1章 基本目標（鹿児島が目指す国体）

基本目標

「力みなぎる・かごしま」の多彩な魅力を全国に発信する国体

かごしま国体は、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かした国体となるように『力みなぎる・かごしま』の多彩な魅力を全国に発信する国体を基本目標として定めます。基本目標の実現に向けては、次の5つの項目を大きな柱として様々な取組を行います。

1 コロナ禍からの再生と飛躍を象徴する国体

「コロナ禍からの再生と飛躍」を象徴するスポーツ大会として、全国の皆様に感謝の気持ちを伝えるとともに、後催県とのスポーツ等を通じた人的交流等を推進することにより、国民体育大会から国民スポーツ大会へのかけはしとなるよう、素晴らしい、思い出に残る希望に満ちたかごしま国体の開催を目指します。

2 県民が夢と希望を持ち心に残る国体

県民が国体開催に向けて総力を結集し、相互の連帯感や郷土意識を高めるとともに、環境に配慮した大会運営を行い、国体後も明るく豊かで力みなぎる鹿児島づくりにつながる夢と希望のある国体を目指します。

3 スポーツの普及・振興を図る国体

国体を一過性のスポーツイベントに終わらせず、国体開催を契機として県民の積極的なスポーツ活動への参加やスポーツ水準の向上など、広くスポーツを普及・振興し、県民の健康増進や体力向上を図るとともに、スポーツを生かした地域づくりを推進します。

4 簡素・効率化を図る国体

近年の経済状況や日本スポーツ協会が進める国体改革の趣旨等を踏まえ、県内の既存施設の有効活用やボランティアスタッフによる協力など大会運営の簡素・効率化を図り、人的・財政的負担が過重にならないよう配慮します。

5 鹿児島の魅力を発信する国体

鹿児島の素晴らしさを感じることのできるようなまごころのこもったおもてなしをするとともに、美しく雄大な自然や豊かな食文化、先人より受け継いできた文化や伝統など、鹿児島の多彩な魅力を全国に発信します。

第2章 基本目標を実現するための取組

1 コロナ禍からの再生と飛躍を象徴する国体

(1) 後催県への感謝と交流の推進

- ・ かがしま国体の令和5年開催決定に当たり、後催県に多大な御理解と御協力をいただいたことを踏まえ、様々な機会を通じて感謝の意を表明するとともに、後催県とのスポーツ等を通じた人的交流等の実施により開催気運の再醸成や競技力向上の推進を図ります。

(2) 特別国体としての新たな価値の創出

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年に「特別国体」として開催することとなったかがしま国体は、「コロナ禍からの再生と飛躍」を象徴するスポーツ大会として開催し、県民はもとより、全国の皆様にとっても素晴らしい、思い出に残る希望に満ちた国体となるよう成功を目指します。
- ・ 国体の開催期間中、参加する選手や来場者等が大勢訪れることから、大規模災害や突発事故、傷病、感染症などの発生に備え、集積した知見をもとに、危機管理体制を構築するなど、各種計画を策定・運用し、安全・安心な大会運営に努めます。

(3) 国体から国民スポーツ大会へつなぐ取組

- ・ これまで開催された国体運営の取組や国体の感動と興奮を引き継ぎ、世界的に広く用いられている「スポーツ」の語を用いた国民スポーツ大会として初めて開催される「SAGA2024国民スポーツ大会（佐賀国スポ）」へのかけはしとなる国体を目指します。
- ・ 九州で2年連続開催となる「かがしま国体」と「佐賀国スポ」を「双子の大会」と位置づけ、佐賀県との連携により、スポーツをはじめとした様々な交流を行うプロジェクト（通称「エールプロジェクト」）を推進し、両県の関係深化を図りながら、「かがしま国体」と「佐賀国スポ」を両県民で応援し、盛り上げていきます。

(4) 国体開催による経済浮揚の取組

- ・ 令和5年のかがしま国体開催につながる全国大会レベルの大規模スポーツ大会の本県への誘致に取り組み、宿泊・交通・飲食などの観光消費需要の喚起による経済効果の誘発を図ります。

2 県民が夢と希望を持ち心に残る国体

(1) 県民総参加の取組

- ・ 各種競技（正式競技・特別競技・公開競技・デモンストレーションスポーツ）を全43市町村で実施し，広く県民の間にスポーツを普及するとともに，競技運営やボランティアなどの県民の参加機会をより多く設け，県民総参加の取組を推進します。
- ・ 競技会場や沿道，街並みなどを花いっぱいに彩るとともに，地域や学校などで，手づくりののぼり旗や案内看板などを作成するなど，来県者をまごころのこもったおもてなしでお迎えします。
- ・ 多くの県民，特に子ども達の参加のもと，全市町村を巡る炬火^{きよか}リレーを実施し，県民の記憶に残る，県民総参加の取組を推進します。
- ・ 各競技会における競技補助員や総合開・閉会式の式典演技，音楽等の出演者として，次世代を担う多くの子ども達の参加に努めます。

(2) ボランティアの育成

- ・ 学校やNPO法人，企業，各種団体等と協力し，ボランティアの育成に努めます。
- ・ 共生・協働による温もりのある地域社会づくりの一環として，ボランティア活動を促進するなど，県民がボランティアとしてかごしま国体に参加しやすい環境づくりに努めます。

(3) 開催気運の再醸成

- ・ かごしま国体の開催意義を広く県民に周知するため効果的な広報活動を実施し，かごしま国体への参加意識の高揚を図ります。
- ・ かごしま国体を象徴する愛称やスローガン，マスコット等の更なる普及を図ることにより，かごしま国体開催の気運を再醸成します。
- ・ 県民運動や文化・芸術行事，各種イベント等とも連携し，かごしま国体開催までの様々な機会を捉えて広報活動を実施します。

(4) 脱炭素化及び環境への配慮

- ・ 大会関連施設・設備の整備に当たり，省エネ製品の導入，マイカー自粛や公共交通機関の利用促進，再生可能エネルギーの活用など脱炭素化の取組を進め，地球にやさしい国体を目指します。
- ・ グリーン購入など環境に優しい製品の利用を推奨し，できる限りゴミ等の廃棄物の発生を抑制するなど，人と地球にやさしい国体運営に努めます。
- ・ 省資源・省エネルギーに努め，リユースやリサイクルなど3R（Reduce「発生抑制」，Reuse「再使用」，Recycle「再生利用」）を推進します。

3 スポーツの普及・振興を図る国体

(1) 選手強化等の推進

- ・ 開催県として天皇杯・皇后杯を目指し、体力や技術・戦術、コンディショニングなど多角的な視点から組織的に選手強化を推進します。
- ・ 最強布陣の編成を目指し、新たなターゲットエイジの発掘・育成・強化及びふるさと選手や強化指導員など有力選手の確保・強化を推進します。
- ・ 活躍が期待できる有望なジュニア選手に本県代表としての自覚を促すとともに、競技力向上への意欲を喚起します。
- ・ 各競技団体と連携して、競技役員等の養成・確保に努め、各競技会を円滑に運営します。

(2) 全県を挙げた協力体制

- ・ 県スポーツ協会や競技団体、市町村、学校団体（中・高体連）、大学などとの連携をより一層推進し、かごしま国体に臨みます。
- ・ 強化指導員等の選手と競技会場地住民との交流機会を設けるなどして、地域との絆を再醸成し、選手のモチベーションの向上や競技会場のホーム感の創出につなげます。

(3) 国体を契機とした継続的なスポーツ振興

- ・ 競技会場地市町村では、開催競技のスポーツ教室などを開催し、開催競技の普及・定着を図るとともに、地域の日常的なスポーツの場の提供に努め、スポーツを生かした地域づくりを推進します。
- ・ 多くの県民が気軽に参加できるスポーツ教室や体験教室などの各種スポーツイベントを実施し、それぞれの関心や適性に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを推進します。
- ・ 本県の温暖な気候等を生かし、県内外の競技者やチームのスポーツ合宿（スポーツキャンプ）を積極的に誘致し、競技力向上の環境づくりを推進します。

(4) 障害者スポーツの普及と環境整備

- ・ 国体と併せて、障害者スポーツの全国的な祭典である「全国障害者スポーツ大会」を開催することにより、県民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与するとともに、障害者が興味・関心に応じてスポーツに親しむことのできる環境整備に努めます。

4 簡素・効率化を図る国体

(1) 既存施設等の有効活用

- ・ 競技施設は、これまで子どもから高齢者、障害者などにも配慮して改修を行った県内の既存施設の有効活用を基本とします。
- ・ 競技用具については、これまで整備したものを活用し、国体終了後、一部の競技用具について、後催県への売却を行うなど、経費の節減を図ります。

(2) 幅広い募金活動の展開や民間企業とのタイアップ

- ・ オフィシャルスポンサー等の協賛企業による支援体制を充実させ、地元企業をはじめとした民間活力の導入に努めます。また、県民の理解と賛同による国体募金活動（ぐりぶーファミリー募金）を推進します。

(3) ボランティアの協力

- ・ 総合開・閉会式や各競技会場での運営や案内業務などにおいて、県民にボランティアスタッフとしての協力を得ることとします。

(4) 全国障害者スポーツ大会の開催

- ・ 国体終了後に開催される全国障害者スポーツ大会について、施設整備、輸送交通、宿泊等の面で、国体開催と連携した準備・運営を行います。

5 鹿児島県の魅力を発信する国体

(1) 総合開・閉会式の創意工夫

- ・ 総合開・閉会式は、鹿児島県の多彩な魅力を全国に発信するとともに、コロナ禍からの再生と飛躍を象徴する内容となるよう、創意工夫を凝らします。

(2) まごころのこもったおもてなしや交流の促進

- ・ 県民一人一人が、郷土の自然環境、歴史・文化、食など鹿児島らしい魅力を再認識し、各競技会場でまごころのこもったおもてなしを行い、地域住民と参加選手をはじめとする来場者との交流を深めるなど、鹿児島県の魅力の発信に努めます。
- ・ 本県選手団の応援はもとより、他都道府県応援団を組織し、かごしま国体に参加した選手全員を応援するなど、大会全体を盛り上げるとともに、県民のあたたかいおもてなしの心を全国に伝えます。

(3) 広報活動の推進

- ・ インターネットやテレビ、ラジオ、新聞、情報誌、広報紙など様々なメディアを活用して広報活動を積極的かつ効果的に行い、県内外にかごしま国体の情報を発信します。

(4) 観光関連団体等との連携

- ・ かごしま国体開催の機会を捉え、観光関連団体等との連携により、来県者等への観光情報の効果的な提供や特産品の知名度アップと販売促進を図り、鹿児島県の多彩な魅力を全国に発信します。
- ・ 障害者団体等と連携して、競技会場等での授産製品の販売など、障害者がおもてなしに参加できる取組を推進します。